

## 米国 総合・コアともに鈍化(07年12月生産者物価)

発表日：2008年1月15日(火)

～コアインフレは転嫁率の低下により川上から川下への波及は限定的なものにとどまっている～

第一生命経済研究所 経済調査部

桂畑 誠治(かつらはた せいじ)

(03-5221-5001 : [sei@dlri.dai-ichi-life.co.jp](mailto:sei@dlri.dai-ichi-life.co.jp))

- 12月の生産者物価（最終財）は前月比▲0.1%と市場予想の同+0.2%を下回った。食品が同+1.3%と加速したが、エネルギー価格が同▲1.9%とマイナスに転じた。さらに、変動の大きい食料・エネルギーを除いた生産者物価コア（最終財）は同+0.2%と市場予想通りとなった。
- 競争の激化や生産性の向上等を背景に中間財から最終財への波及は限定的なものとなっており、最終財（コア）は緩やかな上昇にとどまっている。
- 変動の大きい食料・エネルギーを除いた生産者物価コア（最終財コア）のモメンタム（3ヵ月移動平均・3ヵ月前対比年率）は、最終財コアに3ヵ月程度先行する中間財コアが8、9、10月と大幅に鈍化したため、最終財コアは1月に上昇ペースの鈍化が予想される。中間財コアの伸び率が11月、12月に高まったことから、最終財コアは2、3月に伸びが加速するとみられる。しかし、競争の激化や生産性の向上等を背景に川中である中間財から川下である最終財への波及が限定的なものにとどまっており、最終財コアは緩やかな上昇にとどまると見込まれる。

生産者物価 (Producer Price Indexes)

	最終財		コア		エネルギー	中間財		原材料		WTI
	前月比	(前年同月比)	前月比	(前年同月比)	前月比	前月比	(前年同月比)	前月比	(前年同月比)	
07/03	+1.0	(+3.1)	▲0.1	(+1.6)	+3.8	+1.2	+0.4	+2.6	+7.4	60.7
07/04	+0.9	(+3.2)	+0.1	(+1.6)	+3.3	+1.0	+0.8	+1.0	+1.3	64.0
07/05	+0.7	(+3.9)	+0.2	(+1.6)	+3.5	+1.2	+0.6	+1.9	▲1.3	63.5
07/06	+0.1	(+3.3)	+0.2	(+1.7)	▲0.2	+0.4	+0.2	+0.8	+0.0	67.5
07/07	+0.7	(+4.2)	+0.3	(+2.5)	+2.5	+0.8	+0.4	+0.3	+0.6	74.2
07/08	▲1.4	(+2.3)	+0.1	(+2.2)	▲6.7	▲1.3	▲0.4	▲3.6	+0.4	72.4
07/09	+1.0	(+4.4)	+0.1	(+2.0)	+3.7	+0.4	+0.1	+0.9	+2.0	79.6
07/10	+0.1	(+6.1)	+0.0	(+2.5)	▲0.8	+0.1	+0.1	+2.5	+1.4	85.7
07/11	+3.2	(+7.2)	+0.4	(+2.0)	+14.1	+3.7	+1.0	+8.8	▲0.5	94.6
07/12	▲0.1	(+6.3)	+0.2	(+2.0)	▲1.9	▲0.2	+0.0	+0.9	▲0.0	91.7

(注) 数字は季調済前月比。但し、( ) 内は前年同月比 (未季調)。

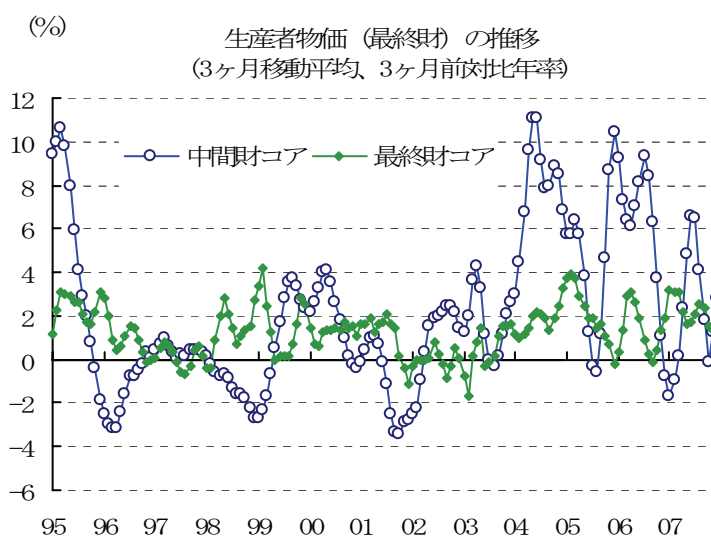
### コアは前月比+0.2%と市場予想通り

07年12月の生産者物価（最終財）は前月比▲0.1%と市場予想の同+0.2%を下回った。食品が同+1.3%と加速したが、エネルギー価格が同▲1.9%と減少に転じた。一方、変動の大きい食料・エネルギーを除いた生産者物価コア（最終財）は同+0.2%と市場予想通りとなった。競争の激化や生産性の向上等を背景に2004年以降、川中である中間財から川下である最終財への波及は限定的なものにとどまっており、最終財（コア）は緩やかな上昇が続いている。

### 最終財コアは2008年1月も上昇ペース鈍化の見込み

変動の大きい食料・エネルギーを除いた生産者物価コア（最終財コア）のモメンタム（3ヵ月移動平均・3ヵ月前対比年率）は、最終財コアに3ヵ月程度先行する中間財コアが8、9、10月と大幅に鈍化したため、最終財コアは1月に上昇ペースの鈍化が予想される。中間財コアの伸び率が11月、12月に高まったことから、最終財コアは2、3月に伸びが加速する

とみられる。しかし、競争の激化や生産性の向上等を背景に川中である中間財から川下である最終財への波及が限定的なものにとどまっており、最終財コアは緩やかな上昇にとどまると見込まれる。



### 消費財コア、資本財ともに前月から鈍化

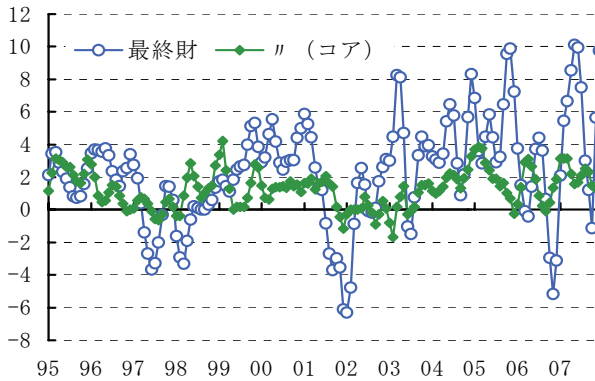
最終財でのカテゴリー別の動向をみると、食品関連では果物、生・加工野菜、生卵、牛肉等の上昇によって食品価格は前月比+1.3%（前月同+0.0%）と加速した。

エネルギーは前月比▲1.9%（同+14.1%）とマイナスとなった。天然ガスが同▲0.1%（同▲5.2%）とマイナス幅を縮小した一方、家庭用電力が同+0.6%（同+1.0%）と上昇ペース鈍化、ヒーティングオイルが同▲0.1%（同+31.5%）、ガソリンが同▲4.8%（同+34.8%）と下落に転じた。

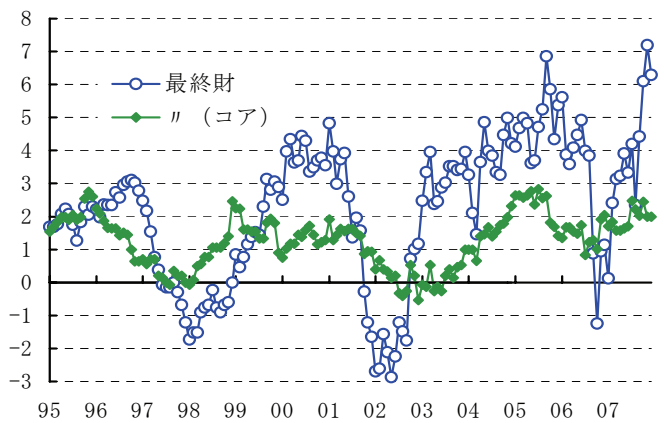
消費財（エネルギー・食料品を除く）は前月比+0.2%（前月同+0.4%）と鈍化した。乗用車価格が販促の拡大によって同▲0.9%（前月+0.6%）と下落した。さらに、家具、玩具、男性衣料品も下落した。

資本財は前月比+0.1%（前月同+0.3%）と鈍化した。コンピューターが上昇に転じた一方、建設需要の縮小やエネルギー価格の上昇によって需要が減少している軽トラックが下落した。さらに、X線・電子医療機器、鉱業機械設備、金属加工機器も下落した。

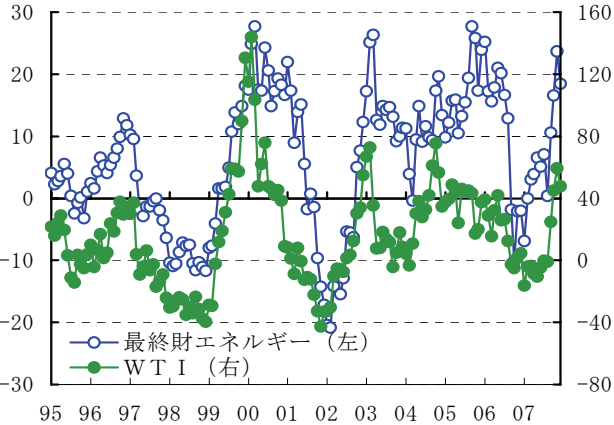
(%) 生産者物価（最終財）の推移  
(3ヶ月移動平均、3ヶ月前対比年率)



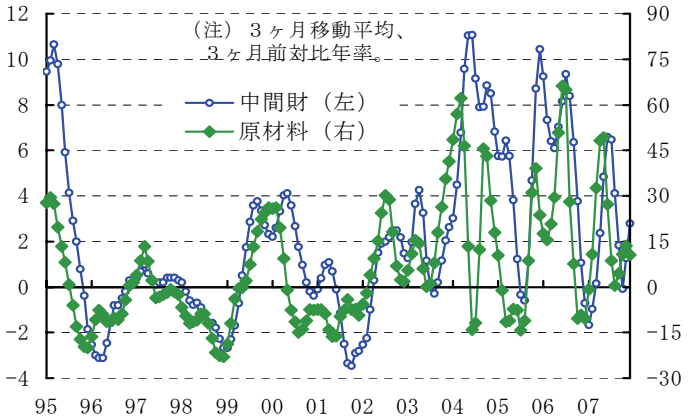
(%) 最終財生産者物価の推移(前年同期比)



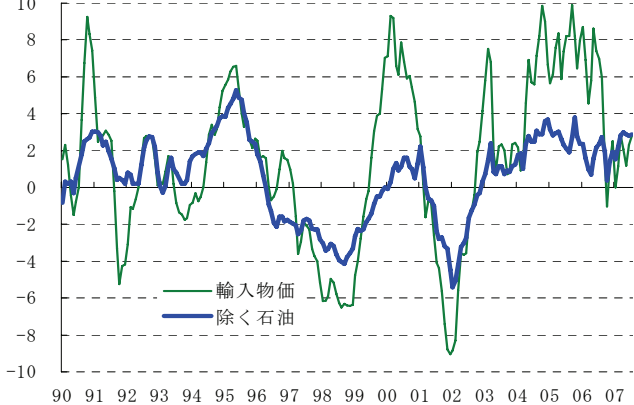
(%) 生産者物価と原油価格の推移(前年比)(%)



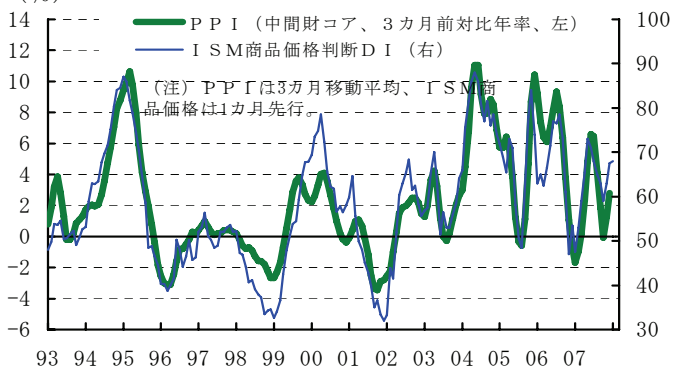
(%) 生産者物価(中間財・原材料、コア)の推移



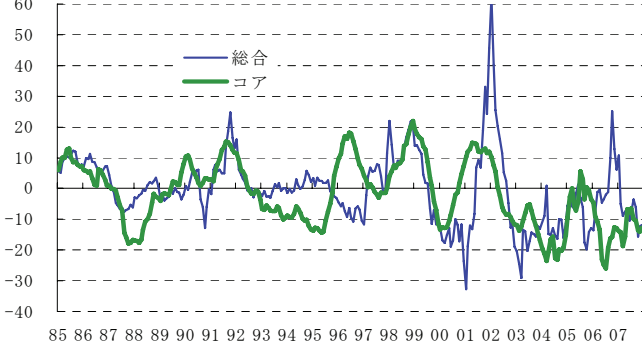
(%) 輸入物価(前年同月比)



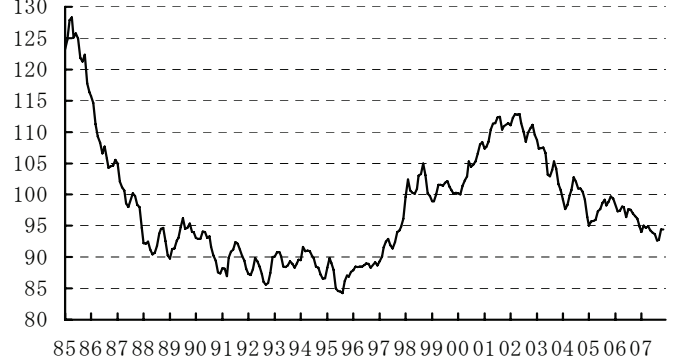
(%) 生産者物価とISM価格判断指数の推移



(%) 交易条件(前年同月比)



ドル実効レート(月中平均)



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。